

第 1 回東海村“自分ごと化会議” 議事概要

参加者	<ul style="list-style-type: none"> ■自分ごと会議メンバー <ul style="list-style-type: none"> ・無作為抽出で選出された村民 7名, 県立東海高校生 1名 ■コーディネーター <ul style="list-style-type: none"> ・熊井成和 (一般社団法人 構想日本 特別研究員)
-----	--

◇ 開会

山路) 施設レビューの意見などをもとに, 自分ごと化会議で議論するテーマを設定した。“あるべき姿”ではなく, “ありたい姿”という視点から, 様々なご意見, ご提案をいただきたい。

◇ 自己紹介

◇ アンケート結果について

- アンケートの中で記載された, 自由意見の一部を紹介※「施設レビュー結果」参照

◇ 施設レビューの振り返り・第 1 回会議の進め方

- 施設レビューは, 4つの施設区分に従って, 合計 7 施設を中心に議論を実施
- 施設評価シート及び外部有識者・会議参加メンバーの発言をもとに, 3つの共通テーマ「ありたい姿」, 「有効活用」, 「収益性」, (「その他」)を設定
- 第 1 回会議の目標は, 「意見をすべて出し尽くすこと」と, 「改善提案シートの記入」
- 東海村, 周辺住民の生活者としての意見が重要

◇ 全体協議

1-1	ありたい姿【ビジョン】
村全体のビジョンの中で, 施設がどういうふうに関立っているのか, 役割を考えていく必要があるのではないか?	

- コミセンは, 祭りの打ち合わせや, 地元の釣り大会の集合場所, 村長との会合等として利用
- コミセンは, 人同士が集まって交流できる場所
- 「顔の見える関係」は重要だと思っており, SNS では感じ取れないような関係性を構築することが重要

熊井) 皆さんは, ビジョンやランドデザインの期間的なターゲットはどのくらいと考えているか?

- 「東海村人口ビジョン」で基準値としている令和 2 年から 30 年後の令和 32 年を想定
- 公共施設の寿命を考慮し, ここ 30 年を想定。県や近隣市の施設がある中で, 東海村の「ありたい姿の方向性」を考えることが重要ではないか
- 時代によって地域の土着性に変化があるのではないか
- 年数の縛りは不要。今時点での方向性と何が必要であるのかを議論すべきではないか
- ここ 5 年ぐらいを想定。公共施設全体を見て, 現在の問題点を解決していくべき
- 人が集まる, 活気のある (明るい) 場所であればいいのではないか
- 産業系施設は, 自治体単位で所有する必要性や意味を検討すべきではないか

熊井) 公共施設の方針(現状維持, 縮小, 拡充)についてみなさんの意見を聞きたい

- 日本の人口減少を考えると, 縮小
- ハード面に関して, 「頭でっかちな行政」にはならない方が良い
- 民間に任せるという選択肢もある
- 方向性に関わらず, 住民の満足度アップに寄与してくれるような公共施設であってほしい
- 山田村長) 人口は現状維持を目指し, 自然減はあるが, 転入しやすいような制度を作ったりしている。現状は, 転入増によりキープしている

1-2 ありたい姿【施設の価値】

現状の価値(東海村“らしさ”)はどこにあるのか?(未来にどのような価値を持ちたいかは, 施設によって分かれるかもしれないが)

- ハコモノを作ったからには, 維持費や改修費も考慮し, 有効活用することが重要ではないか
- 「小さな政府(ハコモノ)」にした方が良いと思っており, “らしさ”を出すにしても, 税金の投入度合いを考えるべきではないか
- ハコモノでなければ“らしさ”は作っていけないのか? 民間を使って工夫できるのか(ハコモノにこだわる必要性)を考える必要があるが, サービスを受けられない人が出ない様に注意すべき
- 知的財産としての価値をアピールすることで, 東海村に興味を持ってくれる人が出て来るのでは
- コミセンは歴史的な経緯がある。地域の繋がりを考えるべきだと思うが, コストとの兼ね合いも重要
- 大人の姿を見て子どもが学ぶことも, 人のつながりや交流のある場所だと思う
- 今から老後を見据えて, 人とつながれる場所を確保しておきたい
- 長く住んでいる人たちの中で, 自然につながりが出来ている地区もある
- 災害時に学校を避難所として使うことは, 授業の再開が遅延するため反対
- コミセンに防災機能を持たせる場合, 対応すべき災害を明確にして再編すべき
- コミセンを使用しているか否かによって(人によって)有効性が異なる
- コミセンを使わない人からすれば「あれば使う」程度である
- コミセンの適切な数を検討することは重要
- 総合体育館や文化センターは, 「部活動の地域移行」の拠点としての可能性があるのではないか
- 子どもの教育にとっての文化的な活動を支える施設となれば良い
- 部活をやっている人と指導者のみの関係でなく, 幅広く周囲の人と交流ができる機能を持たせるのはどうか
- 社会教育系・スポーツレクリエーションについては, アウトソーシングする選択肢もある
- 歴史と未来の交流館の周辺エリアは文教エリアであるが, 計画性を感じない
- 歴史と未来の交流館の外観は好き
- 歴史と未来の交流館周辺エリアでは, 交通量の多い道路があり, 回遊性が課題である一方, 東海村の良いところがコンパクトに集まって, 非常に良いところだと思う
- “らしさ”は, 「東海村の歴史」に見いだせるのではないか
- 産業系施設については, 売却や賃借も検討する必要がある
- 「アイヴィル」は住民や学生が使える場所だと知ったので, 低料金であればぜひ使用したい
保健福祉施設は目的を明確化にし, 施設の機能及び施設と事業の管理者との繋がりの見直しが必要

2-1 有効活用【利便性と魅力アップとターゲット】

有効活用するためには, 何が必要なのか?

- 行政手続きを全て電子化すべきではなく, アナログと電子化が共存できれば良い

- コミセンのホールに、トレーニング施設があれば利便性があるのでは（＝施設区分にとられない機能の分散化）。ただし、時間帯とターゲットは考えるべき
- 保健福祉施設などのように、プライバシーの観点から集約してはいけない機能もあるのではないか
- 「絆」等の公共施設やスーパーの間を循環するような施設を結ぶ交通システムがあれば、施設へ行くハードルが下がるのではないか

熊井）アクセスを確保することは非常に大切である。また使ってみないと分からないというのは、「ありたい姿」を考えると、一つのテーマかもしれない

- 施設ごとに利便性や魅力・ターゲットに馴染む施設と馴染まない施設があるのではないか
- 全施設をまとめてではなく、施設の分類区分に応じて議論すべきではないか
- 若い世代や学生に「東海村のここにいるのが気持ちいい」と思ってもらえる場になることもメリット

熊井）東海村の公共施設に何があれば魅力的だと思うか？

- イオンのゲームセンター内のプリクラの台数が少ないので、拡充してほしい
- 保健福祉施設に子ども食堂の本拠地としての役割を持たせるのはどうか
- 年寄りにとっての価値は、生活サービスだと思う

熊井）有効活用は、施設や世代によって異なるかもしれない。暮らしている方が、「これが欲しい」というものを提供するのが有効活用ではないか

- イベントの周知手段として「直前のリマインダー」を導入するのはどうか
- 「安心して生活できること」、「豊かな心で生活できること」を実現できる公共施設であると良い

熊井）有効活用するために求められるものが、ビジョンにもつながるかもしれない。

2-2 有効活用【民間ノウハウ】

民間ノウハウ活用になじむ公共施設とは？また税金を投入してでも、潜在的にサービスを必要としている住民へ支援すべき公共施設とは？

- 指定管理者制度では公共性を損なわないように運営する必要あり競争原理と外部評価に注意すべき
- 利用率などが適正であるかを判断するにあたり、評価基準を知りたい

熊井）定性の評価の基準というもの、目標値を作るのが非常に難しく、ここ10年ぐらい前から数字で評価するようになった。指定管理者制度では、指定管理者に原則、全部任せるが、使用料や使用用途は条例で定められているため、一部制約が残る。また、長期的な契約も特徴の一つである

2-3 有効活用【再編視点】

人口が減っているので公共施設を集約する必要があるが、単なる削減には反対など意見はないか？

- メリット、デメリットを整理し集中と選択が必要
- 現状、自治会の単位数＝コミュニティセンター数
- コミセンは時代に即した集中と選択が必要で、例えば、「地域に根差したコミセン」や「防災に特化したコミセン」などに分けることも1つ。
- 単なる削減には反対。重要で快適な空間であれば、公共施設を増やしても良いのではないか
- 公共施設ごとに、歴史や地域との密着度も考慮しながら再編を判断すべき
- 施設レビュー後、学校帰りに図書館に寄るようになり、空間の快適は良いと思った

- 「東海村立図書館」は「待ちの図書館」ではなく、「攻めの図書館」にすべき。

※「攻めの図書館」とは、例えば、東海村の歴史や社会のトレンドなど、「ここに来れば調べることができる」ことをPRしていくこと

- 人口減少に伴い、大きい建物への集約化も検討すべきではないか

3 収益性

収入を増やす・支出を減らす視点があり、受益者負担がテーマになるかもしれないが意見はないか？

- 公共施設ごとに収益性の必要性を検討
- 今の技術進歩と生産性が見比べが重要
- 効率化をあげることが重要
- 「東海駅コミュニティ施設」については、使用目的の再確認する必要があるのではないか

4 その他

現状把握、及び分析の必要性、コストが不透明、周知不足、成果と評価についてなど以外に意見はないか？

- 特になし。

◇ 主催者から一言

山田村長) 皆さんにとって、「分からない」ということは「必要ではない」ことかもしれない。「必要でない施設」であるため、使わない、行ったことがない。使わなくても生活上困らない。困ったときにはじめて対象施設に行くので、基本、行政は「待ちの姿勢」である。一方、公共施設の中には、「より多くの方々に使ってほしい施設」もある。

公共施設の必要性に関して、関係団体に話を聞いて、村が必要だと判断することもあるが、皆さんからすれば「無駄ではないか」と思われることも多々ある。ただ、施設を必要とする人を切り捨てることは難しい。私は職員に「住民ニーズをよく把握しろ」と言うが、「必要を感じていない人」の意見まで聞けるかということ、そこまでは聞いていない。今日聞いた意見は「施設を知らない、使ったことないという人」の意見である。その人たちが、「どう施設を見ているか」を知ることができた。私たちの税金がきちんと使われているか関心を持つことは当然である。今後は、情報提供のあり方などを考える必要があると思っている。

「歴史と未来の交流館」に関しては、必要と不必要の双方の意見を聞いている。建設をすべきか決断しなければならず、作っている施設もある。これは政治家として最終的な判断であり、私の判断が正しいかどうかは、最終的に住民の皆さんの審判を受けることになる。しかし、「歴史と未来の交流館」の話もそうであるが、私一人の判断ではなく、役場全体や色々な関係者の意見を聞いて意思決定している。しかし全ての声を十分に拾うのは難しいと思っている。

住民の皆さんの意見を広く吸い上げることの必要性を今日改めて感じた。次回は、さらに踏み込んだ意見が出ることを期待している。

◇ 閉会